

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市荒井児童館	
2 指定管理者	特定非営利活動法人アスイク	
3 指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和4年度 25,145人(前年度比 116.4%) ・令和3年度 21,600人 ・令和2年度 18,289人	
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 41,072千円 (41,144千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童クラブ保護者懇談会を実施。	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図っている。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供など、子育て家庭の支援を行っている。今後、地域組織・団体・住民・関係機関との更なる連携、相互交流を図った児童館運営が期待される。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人アスイク）による自己評価》
<p>感染対策を継続しながらも、自由来館の再開や地域と連携してのイベント実施などを通して本来の児童館の役割を担うことができました。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、乳幼児の利用が増加しており延べ利用者数は966名となりました。職員が積極的に声を掛け、親子との関係を丁寧に築いたことが利用の増加につながったと考えます。親子向け行事については、新規連携先2件を開拓し、メイク講座や工作イベントを実施しています。子育て支援クラブでは、講座開催に加え、会員が児童館でのイベントの託児やボランティアに参加する等、積極的に活動しています。</p> <p>地域交流推進事業においては、昨年度より発足した児童館運営委員会が継続的に活動しており、2月には地域懇話会を実施しています。荒井小学校地区の町内会、小中学校、近隣保育園、児童民生員、市民センター、包括支援センターからお集りいただき、活動紹介やテーマを設けた意見交換会を実施、児童館のビジョンを共有することができました。</p> <p>放課後児童健全育成事業では、一日あたり平日80名前後、長期休暇中は120名前後の利用がありました。秋に開催した大型イベント「ハロウィンフェスティバル」には地域の方や子育て支援クラブ、近隣中高生ボランティアのもと、児童クラブに参加する86名の親子が参加しました。また児童クラブに関わるボランティアについて、昨年度は延べ329時間だったボランティア活動時間がR4年度は712時間となり、児童館での活動に意義を感じてもらっている結果だと考えます。</p> <p>その他、フードバンクや食料支援を積極的に取り入れており、支援を必要とする児童クラブ登録家庭にも継続的に食料支援を行いました。フードバンクについては、保護者や地域の方にも賛同協力いただき、家庭で余った食品をご寄付いただきました。若林区役所と連携したご家庭の見守りも継続実施しています。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、自由来館が可能になった9月から、空き箱工作等の創作活動、親子DIY、さつまいも収穫体験、リメイクキャンドル制作、ドッチボール大会など、親子で参加できる行事を開催した。これらの取り組みは、多彩な体験を楽しみながら豊かな情操を育むと共に、親子の触れ合いや保護者と共に子ども達の成長を共有できる機会となっており、保護者からも好評を得ている。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、「ひだまりカフェ」でハーブと絵本朗読やメイク講座、ベビーマッサージ等、保護者のニーズに応えたリフレッシュの場を提供したり、リミックや土の粘土であそぼう、クリスマスリース工作等、年齢に応じた様々なプログラムを実施した。日常の遊びでも、砂場遊び、ボールプール、読み聞かせ、木製玩具など、様々な感覚を刺激しながら楽しめる環境を整え、遊びを通して豊かな感性を育めるよう支援している。</p> <p>地域交流推進事業においては、令和4年度から子育て支援クラブが発足した。共催行事「あらいぐまイベント」として食育講座やヨガ体験、アイシングクッキー作り等を実施し、地域の方たちの出会いの場や交流の場を提供している。「お花クラブ」「野菜クラブ」は、子育て支援クラブと放課後児童クラブの子ども達が一緒に活動しており、児童館が地域と連携し協力体制を築きながら充実した事業を展開し、地域の中で安心して子育てができる環境作り、地域で子どもの育ちを支える環境作りに努めている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、「めざす子どもの姿」を学年毎に掲げて可視化し、全職員の共有のもと支援している。カードゲームやボードゲーム、昔遊びの玩具、運動遊びの用具等一人でも集団でも遊べるよう玩具を豊富に揃え、選択肢を増やして遊びの充実に向けた支援を行ったり、ダンスや各種球技・集団遊びができる環境を整え、様々な遊びを取り入れながら、健康増進と自主性や社会性を育てている。コロナ禍で、児童の様子が分からないという保護者の声に応じて、録画した内容を玄関でタブレットで流す取り組みを開始して、子どもの様子の共有に努めた。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課